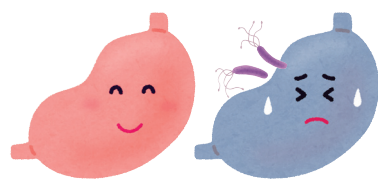


胃がんリスク検査(ABC検診)

胃がんリスク検査(ABC検診)を受診される方へ
受診される方のための説明書です。
必ずお読みください。



● 胃がんリスク検査とは?

ヘリコバクターピロリ抗体検査でピロリ菌の感染の有無及びペプシノゲン検査で胃粘膜萎縮度を調べ、その二つの結果を組み合わせることで胃がんのリスクをA,B,C,Dの4群に分類します。

※胃がんを見つける検査ではありません。

● ヘリコバクターピロリとは?

幼少時に人に感染し、胃に住みつき、慢性胃炎を引き起こします。胃がん、萎縮性胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍など様々な病気の引き金となります。

● ペプシノゲンとは?

胃の消化酵素の前駆体で、ペプシノゲンIとペプシノゲンIIに大別されます。この両者を測定することで、萎縮性胃炎を診断できます。萎縮性胃炎では、Iの低下とI/IIの比の低下が認められます。

● 検査方法は?

採血にて検査します。



● 注意事項

以下の場合には正しい結果が得られない可能性がありますので、担当医にご相談願います。

- 明らかな上部消化器症状があり、胃や十二指腸の疾患が強く疑われる方
- 食道、胃、十二指腸疾患で治療中の方
- 胃酸分泌抑制薬(プロトンポンプ阻害薬:パリエット、オメプラール、タケプロン、ネキシウム、他)服用中、もしくは2カ月以内に服用していた方
- 胃切除後の方
- 腎不全(目安:クレアチニン値が3mg/dL以上)の方

過去にピロリ菌を除菌したことのある方は、判定の対象外となります(E群(除菌群)とも呼ばれます)。また、通常2回目以降の検査は不要です。医師と相談の上、定期的に内視鏡検査を受けられることをおすすめします。